

## 平成27年度木更津市社会教育委員会議第2回定例会 会議録

- 1 会議名 平成27年度木更津市社会教育委員会議第2回定例会
- 2 開催日時 平成27年9月24日(木)午後2時～4時
- 3 開催場所 木更津市役所朝日庁舎 会議室B
- 4 出席者名  
委員：吉野学司、野中洋子、榛澤敦子、安藤順子、青木健、吉田裕子、橋本ミチ子、蘇我芳章、李程英、地曳昭裕、内田慎一郎、石村比呂美、熊本秀樹(13名)  
説明者：土居和幸行政改革推進室長  
事務局：高澤茂夫教育長、鹿間和久教育部長、石井一彦生涯学習課長、佐々木英之主幹、篠田貞明副主幹、堀田かおり主事
- 5 協議事項
  - (1) 今後の公民館整備について
  - (2) 女性の団体活動と地域婦人会について
  - (3) 各種審議会・協議会報告について
  - (4) その他
- 6 会議の公開・非公開の別及び傍聴人の数 公開・傍聴人なし
- 7 資料
  - ①平成27年度木更津市社会教育委員会議第2回定例会資料
  - ②市民活動支援課資料
  - ③行政改革推進室資料
  - ④木更津市各種婦人団体連絡協議会記念誌
  - ⑤平成26年度木更津市婦人会連絡協議会「木婦連」交流会資料
  - ⑥会報「木婦連」第35号
  - ⑦木更津市における婦人会の団体数・会員の推移
  - ⑧第50回君津地方社会教育推進大会 事業報告
  - ⑨第58回全国社会教育研究大会千葉大会 第47回関東甲信越静社会教育研究大会 平成27年度第2回実行委員会資料
  - ⑩生涯学習フェスティバル2015折込チラシ
- 8 会議の内容  
司会 ただ今より、木更津市社会教育委員の委嘱状の交付を行います。お名前をお呼びいたしますので、恐縮ですが自席でご起立くださるようお願い申し上げます。(青木 健、熊本秀樹)  

委嘱状授与—高澤教育長

介添え—鹿間部長

名前読み上げ—石井課長

  
司会 ありがとうございます。以上をもちまして委嘱状交付式を終了いたし

ます。

それでは、ここで新しく委員になられたおふたりから自席で自己紹介をお願いいたします。

青木委員 皆さんこんにちは。公民館運営審議会から参りました青木と申します。平成24年度から社会教育委員をやらせていただいております、まだ3年しか経っていませんが、よろしく願いいたします。

熊本委員 この度社会教育委員に任命されました、熊本でございます。よろしく願いいたします。私は7年前までサラリーマンをしておりました。その後、自分で何か地域に役立てることがないかと思い、公民館の活動などやらせていただいております。またこういう場で私に何か役に立てることがあれば、一生懸命やらせていただきたいと思います。よろしく願いします。

司会 ありがとうございます。

それでは、これより平成27年度木更津市社会教育委員会議第2回定例会を開催いたします。委員18名中、13名の出席であり、欠席は5名であります。従いまして、社会教育委員会議運営規則第3条第2項の規定により、委員の2分の1以上の出席がございますので、本日の会議は成立しております。

なお、本会議は木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公開されておりますが、本日の傍聴人は0人です。以上報告いたします。

それでは開催に先立ちまして、蘇我議長からご挨拶を申し上げます。

蘇我議長 皆さん、こんにちは。事務局のご配慮で、市役所が移転して一番にこの会議室を使わせていただきました。

1回目の会議を開催してから色々な事がありましたが、こうやって元気な姿が見られて良かったと思っております。

そして青木さん、お帰りなさい。公民館運営審議会の総会の関係で、委嘱状の交付式が今日になってしまいました。そして熊本さん、ようこそいらっしゃいました。私の考え方に「ご縁を大事に」という言葉があるのですが、熊本さんともご縁をいただきました。熊本さんは番組を一つお持ちで、私も2回ほど、出させていただいたことがあります。ありがとうございます。これでフルメンバーになりました。委員の皆さんとも色々な話をしていきたいと思っております。

先日、警察署の会議に参加してきました。その中で、振込詐欺、千葉県では「電話 de 詐欺」という名称をつけたようですが、その話題が出ました。今は「金くれ詐欺」というより「金やる詐欺」いわゆる還付金詐欺が非常に増えているそうです。手口が巧妙で、銀行のATMは、職員が訓練をされており、被害を未然に防ぐことができるので絶対に使わず、ショッピングセンターなどのATMを使っているとのことでした。これを何とかしなくてはいけないということで、期せずして出たのは、「地域力を高めなくては、ストップできない」ということでした。広報をするだけでなく、地域力があれば、お年寄りが騙されそうなときにストップがかけられる、だから地域力を上げることが必要だと話が出ていました。

その時にふと思ったのが、地域力を高めていく一つに社会教育があるの

ではないか、ということです。皆さんが色々活動されていますが、それらが地域力の向上になっていくと私は思いました。それがもっと向上するように、社会教育を高めていくというお力添えを皆様にいただきたいというように、心から思っております。この顔ぶれを見ていただくと、色々などころでご活躍している方々ですので、様々な観点から多様なお話をさせていただければいいと思っております。議長として、たくさん意見が出るように運営していきたいと思っておりますので、ご協力お願いいたします。

司会 続きます、高澤教育長よりご挨拶を申し上げます。

高澤教育長 改めまして皆さん、こんにちは。早いもので、9月の下旬を迎えました。大変、忙しい中、第2回目の社会教育委員会議にご参加いただきまして、ありがとうございます。

今日から市役所が駅前庁舎と朝日庁舎の2か所に分かれました。8時20分から朝日庁舎、10時から駅前庁舎でオープニングセレモニーを行い、多くの方にご参加いただいて無事に開庁することができました。今日の社会教育委員会議が教育委員会においても正式の第1回目の会議であり、記念すべき会議だと考えております。多くの皆さんにご不便をおかけすることもあったと思いますが、皆さんのご理解をいただきながら、今まで通り業務を推進してまいりたいと考えております。

ただいま青木委員と熊本委員に委嘱状を交付させていただきました。それぞれのこれまでのご経験・お力を踏まえて、社会教育の推進に向けてお力添えをいただければありがたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

お手元の次第にありますように、第1回目の会議以降に委員の皆様がご参加された各種審議会や協議会についてのご報告もありますが、今日の主な協議は、「今後の公民館整備について」及び「女性の団体活動と地域婦人会について」の2つになると思います。皆さん方の忌憚のないご意見をいただきながら、有意義な会議にしていきたいと思っておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

司会 ありがとうございます。それでは会議に入って参りたいと存じます。今後の進行につきましては、木更津市社会教育委員会議運営規則第2条第4項により議長をお願いいたします。それでは蘇我議長よろしく願いします。

蘇我議長 それではただ今より、平成27年度 木更津市社会教育委員会議第2回定例会を開催いたします。

では、まず(1)「今後の公民館整備について」協議を行いたいと思っておりますので、ご説明をお願いします。

#### 説 明

蘇我議長 前年度皆さんとお話をした(仮称)金田地域交流センターについて、市民活動支援課の方からご説明をいただいてご質問を、と予定しておりましたが、本日欠席ということで生涯学習課長から資料説明がありました。本日はご説明のみで、詳しいことについては、次回の会議等で伺っていき

いと思います。

公共施設マネジメントについては、行政改革推進室長からご説明がありました。こちらについては、難しいところもありましたが、社会教育委員として今後いろいろなことを考えていく上で、基本的なところから、ぜひこの機会に聞いていただければと思います。

青木委員 引き続き公民館の耐震診断は実施するのですか。

石井課長 教育振興基本計画が本年度から始まりました。その4年間の計画の中で、旧耐震基準で建てられた6公民館については、耐震診断を実施していきます。平成27年度から進んでいる木更津市の第1次基本計画においても位置付けられており、平成28年度から耐震診断を行っていく計画でございます。教育委員会としては、それを踏まえて公民館の総合的な整備計画を作っていないと考えております。

内田委員 先程、公共施設等総合管理計画の流れでステップ1「公共施設等総合管理計画策定」が2年間で実施され、その後ステップ2「(仮称)再配置計画策定」に流れるとご説明いただきました。そして今、耐震診断を4年間に渡って実施する、というお話がありました。例えば公民館が統廃合をする案が出たとき、耐震の基準は1つの指標になるのではないかと思ったのですが、2年間でステップ1が終了した後に耐震診断の結果が出て、結果によってステップ2に入っていたときでも差し替え等のことはできるのでしょうか。

土居室長 「4年間で耐震診断」とお答えさせていただいたのは、耐震補強まで含めておまして、平成28年度に耐震診断は終わらせる基本計画になっております。施設を安全に使いたいと考えておりますので、耐震診断の結果は重要な指標になります。仮に2つのうち、どちらかを統廃合してなくさなければならぬ場合、耐震性の悪い方にお金をかけて残す必要はないので、耐震診断結果を見た中で統廃合、再配置を進めていきたいと考えております。耐震診断の結果が出た後、結果を見ながらどこをどのような形で統廃合するか、2年間で具体的に検討したいと考えております。

内田委員 それでは、ステップ2の中で診断結果を考慮した判断を行うということですか。

土居室長 その中で、踏まえながら検討してまいります。

石井課長 耐震診断は平成28年度に実施しますが、結果が出るのが平成28年度のいつになるかは分かりません。基本的には耐震診断を施設課が中心に行いますが、平成28年度の2月、3月になると再配置計画との整合性が図れるかどうか心配な部分ではあります。

内田委員 見解が分かっているようなので、そこはすりあわせていただきたいと思います。自分の意見としては、庁舎内で横の繋がりが取れて、皆が見て「大丈夫だ」といえるような形で進めていただければと思います。

鹿間教育部長 今話を整理させていただきます。教育基本計画の中で行う耐震診断についてですが、まず旧耐震部分の公民館6館のうち、金田公民館については、(仮称)金田地域交流センターが今後できますので、耐震診断はしません。公共施設マネジメントを進めるに当たっても、現存する公民館がど

のくらいの期間もつかを検討するために公民館の耐震診断は必要だというのは、教育委員会と行政改革推進室の共通認識です。

また、診断結果が分かるのが平成28年度末になったとしても、FM(ファシリティ・マネジメント)との調整が必要だと認識しています。

蘇我議長 ありがとうございます。

今の関連でもよろしいですし、その他のことでも何かご質問、ご意見ございますか。

地曳委員 木更津市は行政改革と同時に市の基本計画という大きな流れがあったかと思います。基本計画は、行政改革というフィルターを通して履行されるものなのか、それとも基本計画の中に行政改革はまだ加味されていないのかを確認したいです。

土居室長 平成27年から4年間の基本計画が行われます。その中で、行政改革推進室がFMを本格的に取り組み始めるのが本年度からになります。今年の基本計画に載せてあることについては、行政改革推進室ではなく企画課と財政課で計画を立ててございます。今見直しを行っているところですが、これについては、行政改革推進室の意見を踏まえた中で、これから市の計画を進めていくというふうに考えております。

政策的な考え方で「行革」に関するものというのは、他の「行革」の取り組みの会議でやっております。

市の総合計画の方は、行政改革というよりも政策的な関連での市の基本計画ということになっております。ですので、「行革」と今市が動いている基本計画については、別のルールだが同じ方向に向かっているという説明になります。

地曳委員 「行革」の動きと基本計画の動きが違っていると困るので、整合性が取れなくてはいけませんよね。

土居室長 見直しを凶っていますので、「行革」の方が基本計画の方の会議と一緒に入って打合せをしながら作っています。

地曳委員 これは、社会教育委員ではなく、一市民としてお聞きしたいのですが、基本計画に「行革」の機能を加えて新しくしたとして、「これは「行革」の理念に反映された基本計画なんだ」ということが、市民に分かるようになっているのでしょうか。

土居室長 市の基本計画と行政改革大綱というのが、同じ年度で一緒に進んでいます。それらをリンクさせ、市の基本計画でやろうとしているものを行政改革大綱の中に入れていこうというシステムになっております。市の計画の方のスタッフと一緒に行政改革大綱を作っておりますし、基本計画の方も中期財政計画を基本に動いているところでございます。それと並行して、行政改革大綱に基づき「行革」も進めるということです。

蘇我議長 ありがとうございます。難しい面も多々あると思いますが、こういう時に質問をしていただくと、色々なことが見えてくると思いますので、何かありましたら挙手をお願いしたいと思います。

それでは私から、よろしいですか。土居室長からのご説明を聞いていて、行政改革も市もそういう方向でいくのだなということが分かりました。気

になったのが、ここでは述べ床面積だけで判断をしているというところです。「教育施設が61%あるからここは絶対に33%は削減しなくてはならない」というようなお話に聞こえたのです。一つの指標としては、延べ床面積もあると思いますが、やはり今後の本市の向かって行く方向として、必要なか、不必要なのかという観点としては、延べ床面積以外にも何かの指標があった方が良いのではないかと感じています。

土居室長 短い時間でご説明させていただく中で、延べ床面積が一番分かりやすいかなと思って、今回はこちらの資料を用意させていただきました。利用状況や費用なども今、生涯学習課や各公民館、学校などで調べていただいております。利用状況が悪い施設は、なぜ悪いのかを検討しなければいけないと感じています。安全で、言い方が悪いですが黒字に運営できているのが一番よいのですが、赤字で、危険だから皆さんが利用できないというのが、今、問題になっていますので、維持管理状況や利用状況を踏まえた中で、減らす、あるいは減らさない、もしかしたら今のままでいいという判断になるかもしれませんが、そういったところを色々踏まえながら検討していきます。

蘇我議長 ありがとうございます。他にどなたかございますか。

内田委員 教育施設が61%というのは、確かに多いです。何年か前に小中学校の適正規模の審議委員会がございまして、自分も委員として審議したのを覚えています。その中で、小中学校の統廃合についても、突っ込んだ話がありました。先程のお話で教育施設も削らなくてはいけない、とのことでしたが、平成23年度に市議会等の意見で「木更津市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」が出されたかと思います。それらもこの中に反映されるのか、お聞きしたいです。

土居室長 基本方針については、できるだけよい教育環境の中で子どもたちに対応していくという観点から書かれているものだと思います。教育委員会では色々な配慮を行い、「学校が必要である」と考えていますが、行政改革推進室は、申し訳ありませんが、もっとドライにやらせていただきます。子どもの数が少ないのであれば、学校を統廃合できるというのが行政改革推進室の立場です。子どもが少ない所があれば、学校を1つにしたいと考えております。ただ、そちらの方針は読ませていただいております。検討は行っております。

鹿間部長 基本方針に関しては、議会等々で皆様の質問を受けており、2つの小学校及び2つの中学校について、今後の児童・生徒数を見ながら統廃合を検討するという方針が明確に打ち出されています。FMやドライな考え方というのはまた別として、教育委員会としても当然、その方針に則り進めています。特に、児童数が少ない所については、進めざるを得ないという考えでもあります。その結果、統廃合がやむを得ないということであれば、結果的には教育施設の面積減だということなので、FMに反映させることになります。

地曳委員 先程、「ドライに」という発言があったかと思うのですが、そうであるならば、いろいろな利用状況や業務委託等の整合性を図るという話と従前の

話と違いがあるのではないかと思いますので、そこはいかがでしょう。

土居室長 どの市でも施設を減らしたくないというのは同じだと思います。せっかく建てたものであり、現在その施設は市民が利用されているからです。私が「ドライ」と申し上げさせていただいたのは、「それでもやらざるを得ない」という意味です。もちろん利用状況等も勘案しながら、それでも大鉦を振るわないとできないことです。このままいけば、20年後に施設を維持できないという状況は明らかで、しかしそれをいろいろなことを勘案しながらやっているのが今の施設です。勘案しながらも大鉦を振るわせていただく計画を作らざるを得ない。全国的に、どこも減らせません。ですが、減らさざるを得ない。それが「ドライに」減らさざるを得ないという意味です。

地曳委員 言葉の使い方の問題なのですが、最初は「ドライに」というところを強調されているように感じたので、無味乾燥的な風に聞こえたのです。いろいろ協議して、やらなければいけないということがわかり、周知徹底されれば良いと思うのですが、あまり「ドライ」という言い方は、言葉が独り歩きしてしまう可能性があるかと思います。

土居室長 冷たいような言い方で申し訳なかったです。私はこの席に呼ばれることに不安もあったのですが、ここにおられる委員の方々には市の状況もご理解いただいています。私がどこの会議に顔を出しても「施設を減らさないでくれ」と言われます。しかし、「ドライに」という考えでやらざるを得ない。ですけれど、会議をやった中で、十分皆さんの意見を聞きながら、この施設はこうだから残しましょう、という意見は当然最初の説明会の中で拾い上げております。行政改革は市民のご理解を得てやらないといけない、そのためには私たちが、言い方が冷たいかもしれませんが、「ドライに」数字を出さないと、客観的な判断をさせていただかないといけないということです。

吉野委員 先程からの話合いの中での施設を増やす、切るという視点のお話では、おそらくは今の流れになってしまうのではないかと思います。私は実は中郷小学校の所属で、渦中にある学校ですので、口を開かせていただきますが、「増やす」「減らす」ではなく、少し視点を変えていく必要があるのではないかと感じています。本校は一番多い時期で昭和30年代で500人を越えている大規模校でした。それが10年ごとに100人単位で減り、現在は65人です。ですので、間違いなく統廃合の対象になってくるわけですが、平成29年12月に新しい校舎ができます。ただ、これについても土居室長からお話があったように、1施設、1機能だとあまりにももったいない。せっかく新しい学校になるわけですから、そこに1施設だけではなく、他の側面を持たせられるのではないかと考えています。

先程来、出されていますように、述べ床面積や利用者はどうかなどの数値だけで判断する前に、この施設をどのような形に再構築すれば、どんなふうにご利用が増えていくか、充実した環境にできるか、そういったものをもう1回持つべきなのかなと思います。行政ではなく、企業の中では、介護施設と保育施設を設けている所が増えていますが、その中で同時に活

性化を図るとか、高齢者の方々が持っている力を発揮してもらおうとかあると思います。切る、切らないの話ではなく、再構築していく、あるいは、見直すと言う仕組みの方が話が進むのではないかと思っています。

予算ありきなので、ドライになってしまうのはわかりますが、そういう考慮も必要なのではないのでしょうか。

熊本委員 今の話の中で、色々な形で視点を変えていくのが非常に大事で、学校、公民館、市の窓口、それぞれではなく、学校の中に公民館があったり、市の窓口があってもいいのかもしれませんが。そういうものを含め、これから木更津市が何に投資するか、その投資能力を最大限に生かすのにはどうすればいいか、考えていただけたらありがたいと思います。

蘇我議長 ありがとうございます。まだまだご意見があるとは存じますが、(1)「今後の公民館整備について」についての協議は、以上をもって終了いたします。行政改革推進室の土居室長、お忙しい中ありがとうございました。(説明者退室)

蘇我議長 続きまして、(2)「女性の団体活動と地域婦人会について」の協議に入りたいと思います。事務局からご説明をお願いします。

#### 事務局説明

蘇我議長 事務局より、(2)「女性の団体活動と地域婦人会について」ご説明がありました。ご意見、ご質問等ある方はお願いします。

橋本委員 婦人会というのは、地域の婦人がまとまって活動していると認識しております。今の社会情勢からいうと、地域の人たちの集まりというよりは、個々の興味や学習とかによる集まりの方が増えてきています。あるいは、社会的な必要性に応じて、NPO法人を立ち上げるなど、活動の主流が移ってきているように私は思います。その中で、木更津の婦人会のメンバーが、ただ単に高齢化し、活動ができなくなってしまっただけではないと思うのです。婦人会で活動してきた人たちが、何らかの形で活動の種類を変えて、団体名を変えて、地域を越えた所で活動している人たちがいるのではないかと思えます。それも社会教育の成果だと思っておりますが、そのあたりの数字が分かりますでしょうか。

佐々木主幹 具体的な数字については、把握していませんが、かつて婦人会と言え、木更津市婦人会連絡協議会しかなかったのですが、生活学校やNPO法人などの団体に広がっていく中で、地域の婦人会の数も減少していく傾向は、確かにあるのではないかと感じております。また、環境問題や消費者問題等、女性の活動の視野が広がっていったことにも関連して、女性団体、婦人会の活動範囲が変わってきたとも感じております。

ただ地域婦人会の役割が、全て無くなってしまったのかと言うと、今までと全く同じで婦人会を再構築するというのは無理かもしれませんが、今、PTAなどはまだ若い世代の女性の方が担い手ですので、高齢者社会の中で、地域を基盤にして活動が広がっていく可能性がゼロではないという思いを持っております。

橋本委員 実態として、介護や子育て支援という所で活動している人たちが増えて



います。そういう所を個々の活動ではなく、ネットワークをつなげて全体の力が付くような方向に持っていくのが社会教育ではないかと思っています。そういう動きが持てればいいかなと思っています。

吉田委員 私は、若いお母さんとよくお話をすることがあるのですが、その中でも同じような悩みや思いを持っている方もいます。私にはできないのですが、SNSでうまく若い女性たちを巻き込んで、なんとかうまく活動していることかと思えます。中にはそれに乗っていけない人達もいて、取りこぼしもあるかと思えますが、そういうところから「近くに老人がいて介護などが必要だ」とかいう情報があれば「解った、見てあげるよ」といってくださる方も中にはいると思うので、若い方を社会教育に引きこんでいかなくてはいけないと思います。

石村委員 私は、これまで婦人会などに入ったことはありませんが、やはり横のつながりを持つことも必要だと思います。

ところで、婦人会連絡協議会の皆さんの年齢層は高いのですか。世代を越えた皆さんが集まる方法が難しいと思っておりますが、年齢的に40代以降が集まっている会なのでしょうか。あるいは、若いお母さんたちが子育て支援などで、入っていけるのでしょうか。

堀田主事 婦人会の方々とお話をさせていただいた時に、新しい方がなかなか入ってくださらないと聞きました。若いお母さんたちはお勤めされている方が多く、日中、活動ができないと断られている、という状況です。

榛澤委員 婦人会は年配の方が多のですが、とてもお元気で、子ども会の活動で何かお手伝いできることがあれば言ってくださいと言われました。年配者の皆さんは、子育てなども先輩でもありスキルを持っているので、若い方はもっと頼って、甘えれば良いのではないかと思います。自治会の婦人部も活動が少なくなっているかと思えますが、そういうつながりが地域に根付けば良いと思います。私は真舟地区なのですが、高齢者110番や自警団が見回りをするなど個々にやっている高齢者の方がいますので、そういう方々をうまく引き込めればいいのかと思います。

野中委員 私は、君津市在住です。私が結婚をしてしばらくしたら、婦人会の方に声を掛けられました。お友達がいらないから、あるいはお姑が退くからお嫁さんが入らなくてはいけないなどの事情はありますが、地元の人はもちろん、移り住んできた人も含めてそこに住んでいる人全てに声が掛けられます。いつまでもやっている年齢差があるので、40歳までとなっているのですが、そうしますと子育てから離れて物足りない人は中年会というのを作って、そちらに移行します。中年会も70歳までで、まだ元気でやりたい方は老人会に入ります。一番、元気なのは、老人会です。君津地区で踊りの大会にも出ています。お祭りなんかでも自分たちで決めて司会をやって、踊りで出場していたりするのですが、中年会は1人暮らしのご年配の方々に1カ月に1回、お弁当を作って一緒にお話をしたりしています。婦人会の方は昼間の活動は無く、集まるのが夜で、土曜日の夜や、日曜日の夜など旦那さんが家にいる時に活動します。会費制なので、会費を集めないと自分たちの茶菓子代も出ませんので、皆さん次の会員を見つけます。

強制はできませんが、木更津市の場合も20代から80代までが一緒には活動できないでしょうから、年代の段階を決めて、活動内容も決めてやったり、敬老の日だったらお弁当を作るなど、青年館でご年配の方と子ども会の子もたちと色々なイベントをやったり、夏休みを練習にあてて、お祭りの時は彦笛やお囃子を教えたり、年代を幅広く集めたりできると思います。

李委員

私は中国から日本に来て、20年が過ぎました。中国でも全国悉皆の婦人会の活動にいつも参加しています。今年も新聞やニュースで2015年第5回婦人会が進められていると言っていました。中国の婦人会の幹部などの人は給料を貰いながら専門の仕事をしており、思想を高く、誇りを持って活動しています。

実は私も最初はわからなかったのですが、少し時間が経って、友達が増える中、20年以上も前から町内で油を回収して石けんを作って皆に配ったりしていたなどのお話を聞き、感動したものでした。しかし、日本の婦人会がこういう状態になってしまったのは、婦人会の人たちの問題ではなく、時代の流れなのだと思います。もっと、若者が一緒に参加して活動できるような方法を取れば良いのではないかと思います。中国でも昔、古い考えと新しい考えと一緒に統合されるという考えがありました。もっと自由な考えを持って、若者が入っていくような風潮にしていってはいかがかと思えます。

今の状態では、婦人会に入っても入らなくても一緒、いい事も悪いこともないというような感じなのではないでしょうか。以前の石けんづくりのような活動をもっと行っていくことも大切なのではないかと思います。

安藤委員

私はPTAの活動が長く、婦人会もPTAも同じGHQの支援から出てきた組織です。PTAの方は小学校から任意だが入ってください、と暗黙の了解が続いていますが、婦人会は、入る機会があまりないような気がします。岩根にも「木婦連」に入っていない婦人会があり、公民館などで会えばお話もしますし、色々教えてくださいますが、「一緒に活動を」というのは敷居が高い気がしています。

女子会というのがよくありますが、婦人会という名前が存続するかどうかはともかく、男性に頼らず女性だけで活動するという意味では、根本的には、消えたのではなく、今、当たり前のように存在する女性の活動があります。残念ながら、それがたまたま婦人会の中になかったというのだけなのでないかと思います。婦人会の存続という意味では難しいですが、女性の活動という意味では、木更津にもそうした女性はいっぱいいると思います。

蘇我議長

ありがとうございました。今回の議題については、婦人会を残そうとか、やめてしまおうということではなくて、今まで婦人会が歴史的に行ってきた事を改めて確認し、今後の地域における女性の活動のあり方を検討しようというものです。

最初に橋本委員がおっしゃったように、それが個別の活動なのか、趣味や学習の集まりなのか、PTAや地域を越えたママさんバレーの活動なの

か知りません。とにかく、こうした女性の活動を今後とも継承していかなくてはならないと思いますが、後はどのような形で活動を広げていくのかということだろうと思います。

ありがとうございました。まだまだご意見があるとは存じますが、(2)「女性の団体活動と地域婦人会について」の協議は、以上をもって終了いたします。

それでは、続きまして(3)「各審議会・協議会の報告」に入りたいと思います。委員の皆さんから、報告事項があればよろしくお願ひします。

地曳委員

木更津市役所企画課からですが、「まち・ひと・しごと創生に関する意見交換会」というものに出席してきました。これは、国から平成28年3月までに各市町村で「まち・ひと・しごと創生」の条例を作りなさい、という方針がありますので、それに基づいて開催された会議です。それぞれ「まち創生部会」、「ひと創生部会」、「しごと創生部会」という3つの部会を設けて、市民の話を伺うという趣旨でした。その中で私は社会教育委員として、「まち創生部会」に出席しました。そこで、私は「まちづくりの要点はひとづくりになる」という趣旨の発言をしました。〈仮称〉金田地域交流センターを作るにしても、まち創生を行うにしても、社会教育主事を増員して、地域に専門家を配置する必要があるのではないか。加えて、市長の思いがなかなか市職員に伝わっていませんので、そういう専門性のある人、長けた人のひと創生が大切ということです。この条例は来年の3月に策定されるとのことでした。

蘇我議長

私の方から、7月11日に「第50回君津地方社会教育推進大会」が開催されましたことについて、報告させていただきます。担当が木更津市ということで、君津教育会館を会場に開催させていただきました。社会教育委員の皆様にもお越しいただき、お手伝いいただき、ありがとうございました。結果的には教育会館のホールに319名がお集まりいただきました。最初は心配でしたが、非常に良い雰囲気の中、50回目の記念大会を開催することができました。記念講演をしていただいたのは東京大学名誉教授佐藤一子先生で、戦後70年ということを踏まえて、歴史を振り返りながら、順序立てて社会教育の歩み方をお話の中に入れてくださって、非常に分かりやすい講演会でした。

石村委員

報告ではないのですが、10月18日に生涯学習フェスティバルがあり、第41回少年少女の主張大会があります。少年少女主張大会での発表作品の作文をかずさFMで今年も放送させていただきます。親御さんからもご好評いただいておりますが、私どもも地域コミュニティーで活動しておりますので、是非子どもたちの声を直接届けたいと思って企画しております。まだ日時等が決まっていないので、色々詰めていきたいと思いますが、是非、皆様にもお聞きいただきたいと思ひます。

それからもう1つ、社会教育委員会会議で木更津市立少年自然の家キャンプ場のことを話合って参りましたが、私どもでフリーマガジンというのを作っておりまして、木更津市内の色々な所を巡るというテーマの中で、木更津市立少年の家キャンプ場を巡ったらこんなに楽しかったよ、という内

容を体験コーナーに出ささせていただきました。これは先月号なのですが、少しでも皆さんの目に触れていただき、行ってみようかなという気持ちになっていただけたらいいなと思ひまして出させていただきました。

蘇我議長  
事務局

他にごぞいますでしょうか。事務局から何かあればお願いします。

4点、ご報告とご案内がごぞいます。

まず、「第58回全国社会教育研究大会千葉大会」についてです。開催は来年度の10月26日～28日であり、現在はそれに向けて準備を進めているところのごぞいます。詳しくは資料をご覧いただきたく思ひます。

2点目は木更津市生涯学習フェスティバルのご紹介です。先程、少年少女主張大会の事をご紹介いただきましたが、10月18日の日曜日に開催します。

3点目は文化祭の視察についてです。今年も公民館運営審議会の主催で視察を行います。9月29日に公民館運営審議会が開かれ、正式に決定することですが、10月31日の土曜日に11の公民館を巡る予定で話が進んでいます。正式な文章が来ましたら皆様にご案内いたしますので、多数ご参加をいただきたいと思ひます。

4点目ですが、第3回目の社会教育委員会議の日程についてです。12月18日の金曜日に開催したいと考えています。会議後、公民館運営審議会と合同で祝賀会と忘年会を兼ねて行いたいと考えております。

蘇我議長

「第58回全国社会教育研究大会千葉大会」についてですが、スローガンが「千葉で語り合おう！ 未来を築く 人づくり・まちづくり」となっており、分科会で話し合うのがメインとなっております。「話し合う」というよりも「語り合う」ということを主に、会場作りから考えたシミュレーションを11月に振興大会で行うと聞いておりますので、お時間のある方はぜひ、ご参加をいただければと思ひます。28年度は、社会教育研究大会のほか、全国PTA研究大会も開催されると聞いており、教育分野で千葉が注目される年になるのではないかと思ひます。

他にはよろしいでしょうか。それでは、以上を持ちまして「平成27年度社会教育委員会議第2回定例会」を閉じさせていただきます。皆様の協力で本日の定例会を無事終了することができました。ありがとうございました。

事務局

長時間にわたり貴重なご意見をいただきありがとうございました。

また今後とも、本市の社会教育活動推進のため、委員の皆様にはなお一層のご支援・ご協力をお願いいたします。